

令和2年度(2020年度)フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について 〔記入要領〕

本様式は、各機関が中間評価を踏まえ再構築した「研究力強化構想」(将来構想報告書)に基づく事業の進捗状況を確認する目的で作成するものである。

今後は、毎年度実施するフォローアップを通じて、各機関による成果と課題の分析による見直し(限られた資源を成果の高い取組に重点的に投入するなど)の取組状況の確認に、本様式を活用するものとする。

1. 「令和2年度(2020年度)フォローアップ結果」欄には、研究大学強化促進事業推進委員会からのコメント内容を転記すること。
2. 「将来構想の達成に向けた現状分析」欄には、機関としてのビジョン実現に向けた、本事業における今後2年間の構想(研究力強化・戦略など)について、構想(ロジックツリー上の「将来構想」)ごとに下記の内容を踏まえて、適宜データや定性的な情報のエビデンスを用いて簡潔に記載すること。必要に応じ欄を追加・削除すること。
 - ① 令和2年度(2020年度)フォローアップ結果への対応状況
 1. で記載した令和2年度(2020年度)フォローアップ結果を、将来構想にどのように反映させたか記載すること。
 - ② 現状の分析と取組への反映状況
各将来構想に関係する「事業終了までのアウトカム」、「中間的なアウトカム」指標の2020年度実績を踏まえ、目標達成に向けた課題を整理し、それらを2021年度以降のアウトプット(取組)にどのように反映させたか、「アウトプット(2020年度)」に対するURAの活動実績を引用し記載すること。
3. 計画の履行や指標の達成において、見送りや未達成の理由が新型コロナウイルスの影響を受けた結果であることが明確に説明できる場合、その旨を明記すること。なお、新型コロナウイルスの影響を踏まえ実施した取組(研究環境のリモート化・デジタル化・スマート化など)がある場合、積極的に記載すること。
4. 「ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況」欄には、ロジックツリー・ロードマップを各機関の研究力強化にあたり(PDCAサイクルを回すにあたり)、どのように利活用・横展開を図っているのかについて記載すること。
5. 「特筆すべき事項(定性的な現状・取組状況等)」欄には、その他将来構想における定量的な指標では必ずしも明確ではない特筆すべき定性的な重点事項について、簡潔に記載すること。
6. 「【参考】論文の質に係る指標について」欄には、「国際共著論文率」「産学共著論文率」「Top10%論文率」(5カ年の平均値)について、機関で把握可能な場合のみ該当箇所に記載(小数点第二位四捨五入)すること。なお、ドキュメントタイプは、下記のとおりとすること。

(Scopus・・・Article、Conference Paper、Review
WoS・・・Article、Proceedings Paper、Review)